

地域広報活動について

ITコーディネータの活動を地域メディアにPRするために

2008年7月25日

ITコーディネータ協会

業務開発・広報委員会事務局

■取材を受けたときの対応

ITコーディネータについての統一メッセージの発信
～ 各地で発信するITコーディネータ情報がぶれないために ～

ITコーディネータとは、ITと経営に強いコンサルタント

【留意点】

- ◆ITCと略さずにITコーディネータといきましょう。
- ◆記事中に必ず「ITコーディネータ」という資格名が明記されるように努めてください。
- ◆ITコーディネータは資格名です。記事の中で、ITコーディネータ一と最後に「一」が入らないことを伝えてください。
- ◆業界の専門用語は避けて、わかりやすい言葉で対応してください。

■地域広報活動とは

●メディアリレーションズ 「点」から「面」へ

地域広報活動では、地域の新聞、雑誌、テレビなどのメディアや、地域団体の機関誌へ、ITコーディネータの活動や、支援企業の事例などを報道してもらうことで、活動を広く認知してもらい、ITコーディネータの認知拡大、ビジネスに繋げていきます。



各地域で、ITコーディネータ情報を発信することで、全国的にITコーディネータの認知拡大を目指します。

◆受賞

経済産業省主催の「中小企業IT経営力大賞」、「関西IT活用企業百選」等の受賞企業を支援したITコーディネータのインタビュー取材。協会では中央(東京)から同テーマで発信し、受賞した地域のメディアには各ITコーディネータが発信するという連携をはかっています。

◆地域密着/地域貢献

ITコーディネータは、地元の自治体、金融機関、諸団体等との関係を緊密にし、日本の産業の競争力強化への貢献、地域の中小企業における「IT経営の確立を支援する外部専門家」として位置づけられる人材としての役割を担っています。

⇒地域機関との連携したセミナーや実績を紹介していきます。

◆成功事例

ITコーディネータとユーザー企業のインタビューを通じて成功事例の紹介。

⇒同時に協会にも成功事例の情報提供をお願いします。協会の広報誌や、協会からメディアへ発信する成功事例などに活用させていただきます。

セミナー集客のための開催告知や当日取材誘致をします。

■掲載見本1／セミナー開催告知記事

日本経済新聞(北陸版) 2007年6月23日

福井でIT経営セミナー
■ITコーディネータ協会(東京・港) 二十八、二十九の両日、福井県で、IT(情報技術)を活用した経営革新を支援する「IT経営キャラバン隊」によるセミナーを開く。専門家が中堅・中小企業の経営改善、新分野開拓について講演。ITコーディネーターによる相談会も予定している。二十八日は敦賀市のきらめきみなと館、二十九日は武生商工会議所で開催。参加は無料。問い合わせはそれぞれ共催する敦賀信用金庫、武生商議所へ。

■掲載見本2／セミナー取材記事

神戸新聞 2007年10月20日

中小企業向け
ITセミナー
神戸、35人が参加
情報技術(IT)で業務を効率化させる中小企業向けのセミナーがこのほど、神戸市中央区内で開かれた。兵庫県内の企業経営者ら三十五人が参加し、先進事例を通じてIT化する際のポイントを学んだ。
みなと銀行(神戸市中央区)と近畿経済産業局の主催。企業のIT化を支援する有限責任事業組合ITCLabo(大阪市)の川端一輝理事長が基調講演で「明確な目標と現状認識、達成への熱意が成功の条件」と述べた。
事例報告では、パレル会社・紅屋(神戸市中央区)の松谷齋泰社長が市場動向に合った商品を適時供給するため委託メニューを含めた仕入れ、在庫の管理システムの開発経緯を説明。「IT化の途上で自社の強み、弱みをあらためて見直すことができた」と利点を挙げた。

(大久保 斉)

地域メディアをチェックしてください。

ITコーディネータに関連がありそうな欄やコラムを1週間分チェックし、ITコーディネータ協会へ記事見本を送ってください。


協会から、アプローチしITコーディネータのインタビューをセッティングします。

■掲載見本3／「人物紹介」欄

北海道新聞 2007年9月7日

インタビュー

最適なIT化を
経済産業省推進資格
のITコーディネータ
に、道南でただ一人登
録されている函館市松



川町の税理士川田博仁
さん(左)は「函館では
またIT(情報技術)
化が進んでいない中小
企業も多く、ITコー
ディネータの存在もあ
まり知られていない」
と話す。

経営者がITに詳しく
くない場合、販売元に
進められるまま機器や
ソフトを導入し、その
後、活用されずに放置
される事例もある。経
営とITの両方に精通
したコーディネータが
「通訳」となることで、
企業に合ったIT化を
支援することができる
という。

「パソコン好き」が
高じ、二〇〇二年に登
録。PRに力を注ぐの
と同時に、「自分が企
業と直接契約し、きち
んと報酬をもらって企
業のIT化を手助けす
る仕事をしていきたく
い」と目標を掲げる。



この人の出番 42

「ITコーディネータ」の「この人の出番」は、IT業界の最新動向や、IT活用型経営革新の事例などを紹介する。今回は、安藤秀文社長が率いる「IT経営」の取り組みについて、鬼澤健八氏がインタビューした。

ITコーディネータ 鬼澤健八氏

「ITコーディネータ」の「この人の出番」は、IT業界の最新動向や、IT活用型経営革新の事例などを紹介する。今回は、安藤秀文社長が率いる「IT経営」の取り組みについて、鬼澤健八氏がインタビューした。

常に企業の目線でアドバイス

「ITコーディネータ」の「この人の出番」は、IT業界の最新動向や、IT活用型経営革新の事例などを紹介する。今回は、安藤秀文社長が率いる「IT経営」の取り組みについて、鬼澤健八氏がインタビューした。

ユーザー企業の業種別メディアへの取材アプローチ

業界経営者への広報例

■掲載見本4／業界紙

食品産業新聞 2007年6月18日

■掲載見本5／連載企画記事

週刊BCN 2007年9月17日

「IT経営」
コーディネータ
企業活活化はITCの妙手

安藤 秀文 取材／文
report & text by Shoji Iida

17
アンスコ編 ⑤

精密ネジメーカーのアンスコ(安藤秀文社長、名古屋市北区)は2010年、業界トップ企業に成長する野心的な経営目標を掲げる。これまでトップグループには入っていたものの、頭ひとつ抜け出せていなかった。しかし、大手商社・丸紅の出身で、改革意欲が旺盛な安藤秀文氏が2年前に経営トップに就いたことで状況は一変。成長戦略を明確に指示し、全社員を巻き込んだ経営革新がスタートした。

安藤氏が社長に就いて、まず感じたのが「数字が見えない」こと。生産や販売管理などの基幹業務は20年前に設計開発されたオフコンをベースとしたもので、財務会計や人事給与は一部に市販の会計ソフトを使うなど、リアルタイム性に欠けるシステムだった。

財務会計については緊急を要する課題であったため、社長就任の年にセイコーエプソンの財務会計パッケージソフト「財務応援」を導入。財務スタッフによる従来の紙の管理手法を改め、経営陣がいつでも会計データをリアルタイムに参照できる

ようにした。

とはいえ、生産や販売に携わる多くの社員が使う情報システムを近代化しなければ、本意の意味でのリアルタイム性、正確な数字の把握は実現できない。そこで立ち上げたのが全社的な取り組みである「IT経営改革プロジェクト」である。役員や主要幹部が中心メンバーとなり、2006年7月に旗揚げした。

プロジェクトを成功させるには意識改革から始める必要があった。長年オフコンを使ってきた多くの社員にとって「ITを活用した経営改革」というのもピンとこない。勘がいい社員はすぐに気づいても、ベテラン社員の中にはITと改革が具体的にイメージとして結びつかない場面もみられたからだ。社長自身も頭では分かっているが、こうした人間関係の改革をどう進めていけばいいか迷っていたところにITコーディネータとの出会いがあった。

企業のIT活用型経営革新を支援するITコーディネータは、さっそくコンサルティングを開始。聞き取りを進めていく中で、さまざまな課題が浮き彫りになってきた。アンスコは創業1909年の伝統ある会社だけに、昔ながらの慣習が色濃く残っている。たとえば責任と権限が不明確であったり、情報の共有・共有が不徹底、納期回答が担当者によって異なるなどの問題だ。

コンサルティング業務に参加したITコーディネータで山田ITコンサルティングオフィス・山田和久代は、「IT化をする以前に、こうした企業風土の改革が先決である」と判断し、「経営幹部マネジメント研修」を役員・幹部社員に受講してもらうことにした。



アンスコの安藤秀文社長。本社事務所の敷居にて、出荷を待つネジ製品が壁際と並び、手に持っているのは六角穴付きネジ

(つづく)

出張先での関会長のインタビュー ■掲載見本6／インタビュー記事 東奥日報 2007年10月14日

来県の関会長(ITコーディネータ協会)に聞く



農・漁業にICTを

迅速、的確な情報発信必要

「地域ICT(情報通信)支援している特定非営利活動技術(未承認)株式会社(NTPO法人)・関 会長は、農業や漁業分野のICT活用を促進する。ICT活用は、中小企業と強固。そのためには、ICTで実際に何が出来るのか、成功事例などを通して、効果を知ってもらうことが重要と指摘した。

「ICTは、企業や個人にどのような影響を与えるか。インターネットや携帯電話に代表されるICTは、誰にでも平等なネットワーク環境が与えられるため、距離や移動時間などを克服できる。企業では、在宅勤務、テレビ電話会議なども可能になり、移動時間が省けるようになる。」「農業、漁業分野のICT活用は、ICT活用を促進する。ICT活用は、中小企業と強固。そのためには、ICTで実際に何が出来るのか、成功事例などを通して、効果を知ってもらうことが重要と指摘した。

「世界で最も安く、速いブロードバンド環境は整っている。それをどう活用するかが求められている。中小企業の経営者などに、ICTで何が実現できるかを知らせてもらうことが大切だ。現場からのアイデアも必要。まずは、成功事例を買取にも適用できないか考えればよいのではなか

連携

20人がIT経営術学ぶ

十和田 十和田市の十和田商工会議所は22日、同会議所で「IT経営入門研修」を開き、市内の企業経営者ら約20人が情報技術を駆使した経営術「IT経営」のコツを学んだ。



IT経営について学ぶ参加者たち

同研修は、地元の中小企業が最新の情報技術を活用しな

から競争力強化や生産性向上につなげてもらおうと今回初めて実施。NPO法人「ITCあおもり」理事の澤田徳寿さんが講師を務めた。澤田さんは福井県の和紙製造会社がパソコンで顧客の注文パターンを分析するなどして売り上げを増やした事例を紹介しながら、IT経営のノウハウを紹介。「あなたの会社が10年後も元気であるためには業界のIT導入の流れに乗り遅れないことが大切。周りの環境の変化に気づき、早めに対応しなければならない」と呼びかけた。

関会長取材後のITコーディネータ記事 同紙の同記者によるセミナー取材 ■掲載見本7／同地でのセミナー取材 東奥日報 2007年10月26日

掲載見本④ 協会と連携プレー広報

中央(東京)で、協会からメディアにイベント発信をした後に(例:中小企業IT経営力大賞)、地域に合った情報(地域での入賞)を地元紙に発信してください。両者が連携することで効果的な広報を狙います。

IT経営百選

大目メタックス(福井)選出

県内初 高い技術精度評価

経済産業省は三日、「ピ」ためITを高活用する「経営百選」を発表した。シネス戦略、経営革新の「優れた事例」として、IT「最優秀賞」に本県から初め

て、アルミ製ビル用サッシなど製造の大目メタックス(本社福井市森行町、加藤邦夫社長)が選ばれた。

また、優秀賞にはめっき加工の三和メッキ工業(本社福井市大鍋町、清水和夫社長)が二回連続で、和紙製造業の梅田製紙(本社越前市大滝町、梅田修二社長)は初めて選ばれた。

同百選は、IT経営支援事業として二〇〇四年度から実施され、今回が二回目。「百選」に当たる最優秀賞には全国で七十六社が選ばれ、優秀賞五十九社、奨励賞十四社、IT活用賞十二社も決まった。

ビル用アルミサッシを製造してきた大目メタックスは、切削・切断での液品パネル製造ラインのアルミ部品を製造する分野に進出、売上高を大

く伸ばす中で、受注などの戦略的な経営支援を手の管理システムを構築し、業務効率化し営業力も増すという好循環に力を入れた。経済省の選考理由では、優れたビジネスモデルが他業界の企業にも大いに参考になる事例として、県内初の受賞となる。IT経営革新を推進し中小企業

の戦略的な経営支援を手がけるNPO法人・県情報支援協会(会長久保理事長)は、「身近な中小企業が進出され、おれらができる」という良いモデルになる。自社でも取り組んでみようという刺激になれば」と話している。

■掲載見本8/地域での入選記事
福井新聞 2006年10月4日